

芦峯寺教算坊が大坂で形成した檀那場と立山曼荼羅

福江 充*

はじめに

北アルプス立山山麓の芦峯寺村に所在する芦峯寺雄山神社や旧宿坊家の大仙坊・日光坊、富山県〔立山博物館〕などには、かつて芦峯寺一山宿坊家の衆徒たちが使用した檀那帳や廻檀日記帳が多数所蔵されている。

筆者はこれまで、これらの史料を順次解説・分析し、芦峯寺衆徒が加賀藩領内をはじめ、諸国で形成した檀那場の実態、及び当地で行った廻檀配札活動の実態について検討を試みてきた。

さらに近年、これらの研究成果をまとめ、『近世立山信仰の展開—加賀藩芦峯寺衆徒の檀那場形成と配札—』¹⁾と題する拙著を刊行したが、それによっ

て、この研究分野の基礎的な部分を概ね提示することができたのではないかと考えている。

しかし一方では、まだ未解説・未分析の檀那帳や廻檀日記帳が数多く残っており、これらの史料からも様々な情報が引き出せるものと思われる。

そこで、従来どおり各史料を1冊ずつ着実に解説・分析していくことにして、本稿では、史料群のなかの1冊である芦峯寺教算坊の大坂の檀那帳（寛政12年）を解説・分析し、江戸時代後期に芦峯寺衆徒が大坂で形成した檀那場の実態や当地での廻檀配札活動の実態、その際に使用された立山曼荼羅などについて検討を試みたい。

1 檀那帳の書誌

写真1～5の檀那帳の形態は法量は縦12.5cm×横33.7cmである。表紙には「御祈祷之控 寛政十二歳庚申 二月吉祥日」と題名が記されている。また、裏表紙には「立山芦峯寺教算坊」と記されている。これらにより、この檀那帳は芦峯寺教算坊に所持さ

れていたことや、寛政12年（1800）2月に作成されたことがわかる。さらに、同帳のなかに記された配札地名から、同帳が対象とする檀那場は大坂三郷と近江国坂田郡の数村であることがわかる（これについては次節で具体的に提示する）。

2 芦峯寺教算坊について

芦峯寺教算坊の宿坊号の文献上の初出は、芦峯寺一山会や芦峯寺雄山神社所蔵の古文書を管見する限り、芦峯寺一山衆徒と門前百姓に対する宝暦5年（1755）の宗門御改帳²⁾においてである。

本稿でとりあげる檀那帳は江戸時代後期の寛政12年（1800）に成立したものだが、それ以降も安政期（1854～1859）頃まで使用されている。その間に存命した教算坊衆徒は、「由緒書上帳 扣 立山元

東神職 明治六癸酉年一月扣」³⁾によると、36代の清栄（文化2年11月3日寂）や37代の祐山（天保5年7月23日寂）、39代の快法（文久3年正月25日寂）、40代の佐伯右内らがあり、彼らが代々この檀那帳を使用したものと推測される。

ところで、芦峯寺大仙坊宮司の故佐伯尚宣氏は、同坊の歴代の口伝を「立山神主口伝書 大仙坊七十七代尚宣（昭和10年）」（芦峯寺大仙坊所蔵）として

*富山県〔立山博物館〕

文章化した。それによると、教山坊（教算坊）の廻檀配札地は越前・難波とされている。これについて、教算坊が越前を配札地としていたことは、嘉永

5年（1852）2月付けで立山芦嶺寺から加賀藩寺社奉行に宛てて記された書付の添書¹¹によって確認できる。

3 檀那帳の内容について

3.1 檀家数・宿家数について

檀那帳の内容を分析するため、まず、檀那帳を解説し、その内容をもとにデータベース表を作成した。本稿巻末の付表は檀那帳に記載された全信徒を対象として、巻頭から巻末まで掲載順に、信徒名やその居住地、江戸時代の該当組・郡や現在の行政区、定宿であるか否か、各信徒に関する特記事項（備考欄）などの内容を示したものである。

さて、この檀那帳に記載された檀家軒数は延べ220軒、信徒数は延べ230人、宿軒数は延べ3軒である。ただし、表中の信徒名の項目で※印がふられた①から⑫の信徒については、それぞれ同一人物として記載が重複しており、また、●印がふられた①と②の信徒についても確定はできないものの、きわめて同一人物の可能性が高く、さらに、宿家についてもNo.008「しまや忠兵衛」とNo.016「しまや忠兵衛内」は同一家なので、これらの条件を考慮した実質的な檀家数は204軒、信徒数は215人、宿数は2軒となる。なお、この人数には信徒名の記載がなく、住所のみが記載される場合が8件含まれている。

ところで、檀家のうちNo.011「道具屋権兵衛」やNo.013「かざりや藤助」、No.014「平野屋清七」の3軒については、檀家名の上に「無し」の注記がふられており、これらの檀家は、檀那場が存在していたいつの時期か、それまでの所在地に家がなくなったことを示すものであろう。

3.2 配札地について

教算坊衆徒が廻檀配札に赴いた檀家所在地の詳細については巻末の付表を参照していただきたい。さて、「天下の台所」として全国経済の中心地で商工

業が発展していた近世の大坂は、北組・南組・天満組の三郷に分かれていた。天満組は、ほぼ大川（江戸時代ではこれが淀川本流である）より北の地域である。それ以外の部分は、本町通り辺りをだいたいの境界として、北側が北組、南側が南組である。ただし例外の地域もあり、一箇所は、大坂で唯一の公認の遊廓であった新町である。新町は空間的には南組のなかにあるが、北組と南組の両方に属する町に分かれていた。もう一箇所は堀江の地域で、その町々は元禄16年（1703）11月、北組・南組・天満組に分割された¹²。

教算坊の檀家の多くは、こうした大坂三郷の北組と南組の各町に分布しており、その2組における檀家数は174軒、信徒数は180人である。また、大坂三郷天満組に所属する道嶋（堂島）や天馬町にも4軒の檀家がみられる。したがって、大坂三郷における檀家数は178軒、信徒数は184人となり、全体の約85%を越えている。この他には、摂津国東成郡・西成郡に若干数の檀家が見られ、さらに、大坂から離れた近江国坂田郡にも5軒の檀家がみられる。

なお、現在における大阪市の行政区別に檀家軒数、信徒数、宿数をあげておくと、次のようになる。東区73軒、78人、宿2軒。西区74軒、75人。南区26軒、26人。北区4軒、4人。浪速区は3軒で3人。天王寺区は3軒で3人。滋賀県坂田郡5軒で5人。該当区不明が16軒21人。

東区における檀家分布町については、安土町（1軒）・淡路町（3軒）・上本町（3軒）・内骨屋町（2軒）・内本町上三丁（2軒）・内本町太郎左衛門町（3軒）・追手町（2軒）・唐物町（1軒）・瓦町（1軒）・北久太郎町（4軒）・北久宝寺町（12軒）・北

谷町(7軒)・米屋町(1軒)・上人町(2軒)・住吉屋町(2軒)・谷町(2軒)・釣鐘上之町(1軒)・伝馬町(1軒)・常磐町(1軒)・農人橋詰町(2軒)・農人橋材木町(2軒)・博労町(2軒)・平野町(1軒)・備後町(1軒)・豊後町(1軒)・本町(3軒)・南草屋町(1軒)・南久太郎町(5軒)・南新町(1軒)・南谷町(1軒)・南農人橋町(2軒)などがみられる。

西区における檀家分布町については、越後町(14軒)・岡崎町(1軒)・北堀江(3軒)・九軒町(6軒)・小浜町(2軒)・白子裏町(1軒)・砂場(1軒)・高台橋(1軒)・立売堀中橋町(1軒)・橋通(2軒)・橋町(3軒)・藤右衛門町(1軒)・土佐掘(1軒)・瓢箪町(6軒)・南浜町(1軒)・南堀江(2軒)・山本町(2軒)・吉原町(3軒)などがみられ、その他、新町の記載で23軒がみられる。

南区における檀家分布町については、安堂寺町(3軒)・上塩町(1軒)・高津五右衛門町(1軒)・桜町(1軒)・順慶町(7軒)・道頓堀芝居側(1軒)・道頓堀宗右衛門町(4軒)・長堀次郎兵衛町(1軒)・西高津町(1軒)・松屋町(1軒)・南瓦屋町(2軒)・南壘屋町(2軒)・四つ橋(1軒)などがみられる。北区における檀家分布町については、堂島町(2軒)・天馬町(2軒)がみられる。天王寺区における檀家分布町については、餌差町(1軒)・生玉(1軒)・下寺町(1軒)がみられる。浪速区における檀家分布町については、幸町(2軒)・前垂島〔西側町〕(1軒)がみられる。

ところで、江戸時代、西区には幕府から公許された大坂唯一の新町遊廓が所在していたが、廓を構成する町のうち、新京橋町・新堀町・瓢箪町・佐渡島町(越前町)・吉原町は中心街で曲輪と称された。他に九軒町・佐渡屋町があった⁴⁾。前掲のとおり、このなかの瓢箪町・佐渡島町(越前町)・吉原町・九軒町に教算坊の檀家が存在していたのである。

なお、新町遊廓の越後町の場合を除いて、どの町でも、その檀家数は1町につき1桁の軒数しか存在

していないといった状況である、これは他の芦峯寺宿坊家が他国の農村部などで形成した檀那場の実態などとは異なり、例えば芦峯寺宝泉坊が大都市江戸で形成していた檀那場の実態と類似している。

3.3 檀家について

檀家の実態をみていくと、屋号を持つ檀家が151軒、信徒数158人が記載されている。これは全体の約74%で、信徒の特性としては江戸とは異なり、武家よりも屋号をもつ町人などが多いといった、経済都市大坂らしい特徴が表れている。

一方、武士の身分についてみていくと、南新町2丁目のNo.068「山田周次」があげられる。彼は大番を勤めていたようである。さて、大坂におかれた幕府の諸役職のうち、一番上位に位置したのが大坂城代であり、城代は、定番・大番・加番などを統率して城中を警衛するとともに、西国大名を統帥する立場にあった。そして、このなかの定番・大番・加番は大坂城の警備にあたる役職である。なお、南農人橋1丁目のNo.095「大和屋八兵衛」は、檀那帳の注記に、教算坊が大番から紹介されて師檀関係を結んだ檀家であったとしているが、この大番はNo.068「山田周次」の可能性はある。

信徒の性別をみていくと女性が26名記載されている。そのなかで、No.001「いつ見や与兵衛」の内方として「いさ」の名前が記載されているように、いわゆる町人の妻としての記載もみられるが、その他、遊廓関係者らしき女性の名前もみられる。特に新町遊廓の地域に所在する女性は、No.169越後町「嶋谷飛な」、No.170越後町「大鶴」、No.172越後町「池田屋お飛ん」、No.173越後町「おむツ」など12名である。

この他、宗教者らしき檀家が2軒みられる。いずれも天王寺区に所在する檀家で、餌差町のNo.017「仏性庵」と下寺町のNo.208「称明寺」である。また、壘屋町のNo.123「市川海老重郎」は歌舞伎役者であろう。道頓堀のN.113「安藤寿し」は寿司屋で

あろう。住吉町のNo.060「倉橋屋」は檀那場において新しい信徒を勧誘する際に取り次ぎ人の役割を果たした人物である。

3.4 頒布品について

芦峯寺の各宿坊家が往古より作成してきた護符の種類とその文言を宿坊家ごとに調べあげて記載した、天保4年(1833)の芦峯寺古記録¹⁷⁾に、教算坊が版行していた護符として、①「立山大宮供諸願成就祈所」(内符として「牛王宝印」の大判や小判が収められている)、②「御祈禱配帙 立山芦峯寺教算坊」、③「立山護摩供御札 芦峯」(内符として「火防〔立山火の用心〕」が収められている)、④「立山大宮供諸願成就祈所」(内符として「御姥尊」や「牛王宝印」、「守」、「〔種子〕立山御守」などが収められている)があげられている。なお、このなかで④は小札と呼ばれるものである。

ところで、この檀那帳から護符に関する記載をみていくと、No.002「者や又四郎」(38才の男性)とNo.003「加めや長右衛門」(35才の男性)には、「病氣護符」と称する護符を頒布している。また、No.009「八百屋安兵衛」とNo.013「かざりや藤助」には「家内安全」の護符を頒布している。さらに、No.009「八尾屋安兵衛」～No.0B「かざりや藤助」などの信徒については「札」の注記がみられ、種類は不明だが何らかの護符が頒布されている。この他、No.016博労町の「しまや忠兵衛」は教算坊の大坂の檀那場で世話人及び宿家を務め、現地で立山講を支える檀家の代表者格であるが、その彼には特別に「大札」が頒布されている。

この他、No.062「山田屋五兵衛」、No.091「八幡屋六兵衛」、No.129「飛免じや弥兵衛」、No.147「加ら可さや」らの信徒については、経帷子が頒布されている。特に「加ら可さや」の場合は、新町通り筋の檀家「嶋や嘉七」の西隣りに住んでいるが、ある時に、教算坊衆徒が嶋やから経帷子の注文を受けたことが機縁で、以後同坊の檀家になったという。

No.129「飛免じや弥兵衛」には血盆経と戒名が二人分頒布されている。

頒布品ではないが、No.004「六兵衛」やNo.005「善七」、No.007「清兵衛」については、「燈明」の注記がみられ、衆徒がこれらの檀家から燈明料を寄進されたのであろう。

3.5 祈禱について

この檀那帳から祈禱に関する記載をみていくと、No.089「帯屋伝右衛門」宅では仏前廻向が勤められており、廻向料は15文であった。また、No.197「おせん」宅では、その内容は不明だが何らかの祈禱が行われている。

ところで、檀那帳には一部の檀家に「御座」の注記がふられている。この「御座」というのは、真宗の篤信地帯にみられる門徒の年中行事の一形態である「御座」¹⁸⁾のことを思わせる。教算坊衆徒は大坂の檀那場でこうした真宗の「御座」の布教形態を自分たちの活動にも取り込んでいたのであろうか。或いは、檀那場の大坂三郷では、石山本願寺ゆかりの地だけに真宗寺院がきわめて多いことから、教算坊衆徒が自ら行う布教活動の呼称だけを真宗的に真似て、現地の信徒に受け入れられ易く対応していたのであろうか。檀那帳の記載だけではどちらとも判断しかねるが、いずれにしろ、教算坊衆徒による立山信仰の布教活動は少なからず真宗の影響を受けていたようである。なお、この記載については、特に新町遊廊の檀家に多くみられ、御座が勤められた66軒の檀家のうち、45軒の檀家が同地に所在している。

一方、御座以外には、「懸事(懸ヶ事)」といった注記が7軒の檀家にみられる。特に、No.130の檀家「小尔志」については、年次は不明だが9月4日のこととして「御懸事御願被成候」と記され、またNo.131の檀家「朝倉屋武兵衛」についても年次は不明だが8月28日のこととして「御懸事御座仕候」と記されている。こうした「懸事」の意味については、本檀那帳やその他の関係資料を調べても、その具体

的な供養法や祈祷法を示すような記載は全くみられず不明である。ただし、「懸事」は、衆徒がときおり檀家から願い請われて行うような何らかの所作であることは間違いなく、用字から強いてイメージするならば、檀家宅で立山曼荼羅を「懸」けて行う絵解き布教のことを示しているとも考えられる。

4 檀那帳が使用された時期について

この檀那帳は前述のとおり、その表題から寛政12年(1800)に作成されたことがわかる。ただし、同帳の巻末には、「右大坂之義者、安政二年分作(昨年迄配札ニ相越不申ニ付、右檀家之義ハ不残無家ニ御座候。尚亦代替ニ付、断申立候族茂有之ニ付、右始抹方ニ御座候」といった文言で、同帳が対象とする檀那場の状況を述べた断り書きがみられ、さらに、帳面の所々に「文政四辛迄」⁹¹⁾や「常現真性居士。文政五壬午八月四日」、「常光真月信女かな。文政元寅九月朔日」⁹²⁾、「天保九戌四月改ル」⁹³⁾などの年次記載がみられることなどから、教算坊衆徒が、この檀那帳をそれが作成された寛政12年(1800)から、

なお、本檀那帳には5月14日や同月19日、25日、或いは懸事について前述した8月28日や9月4日の月日が記されており、従来の研究で指摘されてきた農閑期とは異なる時期に布教に出掛けていることがわかる。

継続的にか断続的にだったのかは不明なものの、本帳に記載がみられる年次の文政5年(1822)から天保9年(1838)を経て、安政2年(1855)までは使用していたことがわかる。しかしこのことは、それだけの長い時期、この檀那帳が改訂や完全な作り替えがないままに使用され続けてきたことを示し、ひいては、この檀那帳が対象とする大坂の檀那場にほとんど成長・展開がなかったことを示している。すなわち、大坂の檀那場はほとんど成長しなかったといえるのである。これは、以前示した江戸の檀那場の事例と大きく異なる。

5 立山曼荼羅『稲沢家本(教算坊旧蔵本)』

5.1 立山曼荼羅『稲沢家本(教算坊旧蔵本)』

立山曼荼羅『稲沢家本』は元来、芦峯寺教算坊の立山曼荼羅であった⁹⁴⁾。おそらく、教算坊衆徒が大坂や越前の檀那場で廻檀配札活動を行った際、この立山曼荼羅が絵解きされることもあっただろう。

この作品の形態は絹本3幅で、法量は内寸が140.0cm×166.5cm、外寸が196.5cm×198.0cmである。画中には、芦峯寺衆徒の絵解き題材としての項目である①立山開山縁起、②立山地獄、③立山浄土、④立山禅定登山案内、⑤芦峯寺布橋大灌頂の法会の5つの場面が描かれている。この作品の特徴としては、まず、18世紀後半から19世紀にかけて京坂以西で隆盛した南面の筆致をとっていることがあげられる。

また、一般的な作品では、立山開山縁起の一場面として、画面の下段に、佐伯有頼が熊に矢を射掛け、その矢が熊に命中したにもかかわらず、熊が絶命せずに駆け逃げるので、有頼がそれを追いかける場面が描かれるが、この作品ではそうした図柄は見られず、そのかわりに、画面の真ん中あたりに、有頼がまるで熊を従えるかのように相並べて描かれている。さらに、画面下段には布橋大灌頂の場面がとりわけ大きく描かれている。立山地獄の場面では閻魔王や冥官たちが獄卒や亡者たちより若干大きめに丁寧に描かれている。1・2幅及び2・3幅のあいだが大幅に切断されており、切断された部分の上段には日輪・月輪が、下段には布橋大灌頂で行道する式

衆たちの図柄があったものと推測される。

5.2 文政初期にみられる3幅1対の立山曼荼羅

芦峯寺衆徒と岩峯寺衆徒は宝永6年(1709)から天保4年(1833)までの約125年間、立山の宗教的権利をめくり度々激しい争論を引き起こし、両寺を支配する加賀藩の公事場奉行での裁判沙汰となった。そして、それは文化期(1804～1817)頃から激化した。こうした争論の内容と経過については拙著『立山信仰と立山曼荼羅—芦峯寺衆徒の勸進活動—』(註13)に詳述しているのでここでは省略する。

さて、この一連の争論において、文政元年(1818)10月、芦峯寺衆徒は加賀藩公事場奉行で下された判決に対し、その内容に従う旨と、それに加え芦峯寺衆徒が勸進布教に使用する「御札(祈祷・牛王宝印・火防)」や「山絵図(木版画の立山登山案内図)」、「御絵有頼之由来(立山曼荼羅)」、「御守」などの品々の追加承認を求めて加賀藩寺社奉行に請書を提出している。

この請書のなかで、芦峯寺側が「有頼之由来」(立山曼荼羅)の概要を説明しているが、それには「右有頼之由来ヲ絵伝ニ仕、有頼一代并布施之城主

於立山不思議奇瑞之ともを委細絵図ニ相認申物故、於立山之事とも三幅之絵伝ニいたし、往古 他国江罷越致教化申故、自然与他国 参詣之諸人も御座候。」¹⁴⁾と記されている。

ここで問題となるのは、芦峯寺衆徒の間で、立山曼荼羅が3幅1対の形態とされている点である。これまでの研究では、立山曼荼羅の形態は4幅1対が一般的とされており、実際、現存の立山曼荼羅諸本の形態をみていくと、4幅1対の作品が22点(うち芦峯寺系作品が17点)、1幅の作品が9点(うち芦峯寺系作品が5点)、2幅1対の作品が5点(うち芦峯寺系作品はなし)、3幅1対の作品が3点(全て芦峯寺系作品)、5幅1対の作品が1点(芦峯寺系作品)、折り本1枚(芦峯寺系作品)の作品が1点といった状況であり、やはり4幅1対の作品が半

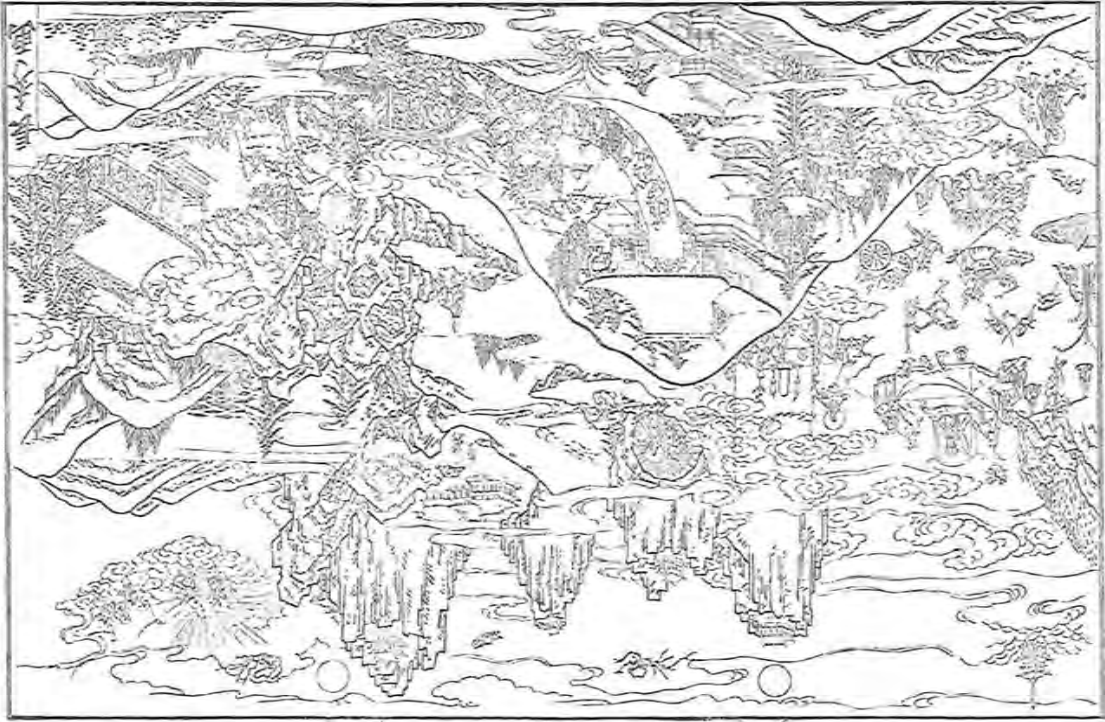
数を超えている。これに対して、3幅1対の立山曼荼羅には、『稲沢家本(教算坊旧蔵本)』や『立山開発鉄道本』、『日光坊B本』が現存するが、このうち、『日光坊B本』は明治時代に成立した作品であり、江戸時代の作品となると『稲沢家本(教算坊旧蔵本)』と『立山開発鉄道本』の2点だけできわめて少ない。また、3点とも芦峯寺系作品である。

この請書の「三幅之絵伝」の記載は芦峯寺衆徒の書き損じだったと考えられなくもない。しかし、この請書は芦峯寺衆徒にとって、立山に対する自分たちの宗教権利をなんとしてでも確保したいという強い意志がこもった特別重要な書類であり、とても書き損じたとは考えにくい。また、この請書は2冊の異なる控え帳に収められており、いずれも「三幅之絵伝」と記されているので写し間違いとは考えられない。

以上の点から、素直にこの文書を解釈して、文政元年(1818)頃、芦峯寺衆徒の間では、3幅1対の立山曼荼羅が主流だったと考えたい。

それではなぜ3幅1対の現存作品が少ないのか。その理由として、諸国で檀那場を形成し廻檀配札活動を行った芦峯寺衆徒にとっては、元来、立山曼荼羅は携帯性に優れた絵解き布教のための教具、いわば消耗品であり、それほど大事にされるものではなかったからだと思われる。自坊から檀那場へ持ち運ばれる際や、度重なる絵解きの際に画面が差し棒などで突っつかれ、傷みが激しくなると案外あっさりと打ち捨てられて新しい作品に替えられるようなもの、或いは実例として『坪井家A本(もと教順坊の立山曼荼羅)』や『立山開発鉄道本』に補筆の痕跡がみられるように、補修されても元図があっさりと塗りつぶされ、おおはばに書き替えられるなどするようなものだったのであろう。特に衆徒たちが自ら描いたような稚拙な作品だとなおのことである。ただし、立山曼荼羅の絵解き布教は檀那場で次第に受け入れられ定着したであろうから、そのうち檀家が立山曼荼羅を寄進してくれたり、或いは例外として

【越中立山御絵図】(富山県立図書館蔵)



越中立山御絵図

立山曼荼羅【福沢家本】(個人蔵)



『宝泉坊本』や『吉祥坊本』のように大名や皇女和宮など、高貴な身分の人々が寄進してくれるようになる。そうなると、衆徒たちも立山曼荼羅を粗略に扱うわけにはいかず、大事に長持ちさせながら使用するか、むしろ家宝として大事にしまい込む場合もあっただろう。現存の立山曼荼羅諸本にはどちらかといえば、こういった類の作品が多いと思われる。

さて、立山曼荼羅のこのような性格から、おそらく文政元年（1818）頃は3幅1対の立山曼荼羅が主流だったのだろうが、後に幕末期になると4幅1対の作品が主流となり、しかも檀家に寄進され、芸術性を帯びた作品ばかりが現存するところとなった。

以上の状況や観点からすると、おそらく文政期頃に成立した作品と推測される『稲沢家本（教算坊旧蔵本）』は立山曼荼羅の形態をはじめ、構図や図柄の変遷を探る上でひじょうに重要な作品として位置付けられる。

5.3 有楽斎長秀作『越中立山御絵図』

有楽斎長秀¹⁶⁾が描いた木版画の『越中立山御絵図』¹⁶⁾は『立山曼荼羅 稲沢家本（教算坊旧蔵本）』とそっくりな構図と図柄をもち、模写関係がみられる。なお、模写の精度からすると長秀は立山曼荼羅を実見していると思われる。この作品の制作時期は坂森幹浩氏によると、落款の書体から文政年間（1818～1830）初～中期頃と考えられている¹⁷⁾。

ところで、長秀の人物をみておくと、彼は京都の画家であるが大坂堀江にも住居を持ち二都で活躍した。堀江は御池通2丁目～4丁目あたりに所在し、堀江新地開発の時に許可された芝居小屋や茶屋もあって、茶立女・飯盛女・飯炊女と呼ばれる遊女が置かれ歓楽街となっていた。長秀の作画期は寛政11年（1799）から天保7年（1836）までとされる。彼は上方絵における最も多作の一人にあげられるが、特に合羽摺の作品では第一人者とみられる。文政前期には大坂心斎橋筋塩町角、車町阿弥陀池表町筋の版元本屋清七¹⁸⁾などから版行された「大坂しん町ねり物姿」（細判合羽摺揃物）¹⁹⁾を発表している。ま

た、文政中期には大判錦絵の役者絵を版元綿屋喜兵衛より発表している。天保後期の作品に広重の作品を模倣した花鳥画もある。こうした役者似顔絵や美人画、花鳥画などの他、滑稽本・噺本の挿絵や芝居番付なども描いている²⁰⁾。

5.4 教算坊衆徒と有楽斎長秀作との接点

長秀は前述のとおり文政前期に「大坂しん町ねり物姿」（細判合羽摺揃物）を描いている。ここでいう練物とは祭礼の際に行われる行列で、練り歩くところからの名称である。これが上方の遊廓で夏に行われた遊女の扮装行列をさすようになる。「大坂しん町ねり物姿」はこうした遊女の扮装姿を一人一枚に描いた遊女絵であり、この作品の存在から作者の長秀が大坂の新町遊廓に出入りしていたことがわかれる。一方、今回分析している教算坊の檀家帳は寛政12年（1800）に作成され、その後、安政期（1854～1859）頃まで使用されてきたものであることから、当然、大坂の檀那場として、その一部の新町遊廓の檀那場もそれと同じ時期に存在していたことになり、こうしたところに新町遊廓という仕切られた特殊領域での教算坊衆徒と長秀の接点、及び『立山曼荼羅教算坊本』と長秀の『越中立山御絵図』の接点が推測されるのである。なお、教算坊は配札、長秀は浮世絵といったように、両者がいずれも紙や墨、木版を使用する刷り物文化に深くかかわっている点も、両者の接点を考えるうえで重要である。

5.5 『稲沢家本（教算坊旧蔵本）』と有楽斎長秀作『越中立山御絵図』との模写関係

筆者はこれまで特に根拠があったわけではないが、漠然と『稲沢家本（教算坊旧蔵本）』は長秀の『越中立山御絵図』を模写して成立したものと推測していた。しかし、どうやらそれは逆だったようである。

これまでの検討内容を一度整理してみると、①芦畔寺衆徒の間では文政元年（1818）頃、後の幕末期

に多くみられる4幅1対の立山曼荼羅ではなく3幅1対の立山曼荼羅が主流であったと推測される。②長秀は文政前期に「大坂しん町ねり物姿」を發表しており、この頃か或いはこの少し以前に、大坂新町遊廓という仕切られた特殊領域で、同所を檀那場とする教算坊衆徒と接触する可能性があった。③教算坊衆徒と長秀はともに刷り物文化の担い手であった。④長秀の『越中立山御絵図』と『稲沢家本(教算坊旧蔵本)』には確実に模写関係が存在する。模写の精度からすると長秀は立山曼荼羅を実見している。⑤長秀の『越中立山御絵図』の制作時期は坂森幹浩氏によると、落款の書体から文政年間(1818~1830)初~中期頃と考えられている。

以上の条件から次のような推測が成り立つ。すなわち、文政年間(1818~1830)の初期~中期頃、当時、大坂新町遊廓で同地を檀那場として廻檀配札活動を行っていた教算坊衆徒と「大坂しん町ねり物姿」を作成するために同地に入出入りしていた長秀との間に接点ができ、長秀が教算坊の所持する立山曼荼羅を模写して『越中立山御絵図』を描いたというものである。

ところで、長秀が『教算坊本』を模写して『越中立山御絵図』を描いた際、『教算坊本』では、各図柄が正方形に近い長方形の画面に収められていたものが、長秀の作品では横丈が長めの長方形の画面に収められたために、特に地獄の場面で各図柄が幾分ゆったりと配置されている。ただし、それによって、

図柄の付加や削除による増減はないものの、賽の河原や火車、目連尊者と串刺しにされたその母、獄卒に舌を抜かれる亡者などの図柄が置換されている。

また、長秀は立山の現地空間に対する認識が薄く、例えば、賽の河原の描かれる位置が、芦峯寺系立山曼荼羅の一般的な作品や『教算坊本』では実景観に即して別山直下のあたりに描かれるのが、長秀の作品では、画面に向かって左端下段に描かれている。また、劔岳の「自然の塔」の描き方も、芦峯寺系立山曼荼羅の一般的な作品や『教算坊本』では劔岳そのものから聳えるように描かれるのであるが、長秀の作品では空に浮かぶ雲上に描かれている。このように、細部を見ていくと、芦峯寺系立山曼荼羅の一般的な作品や『教算坊本』にみられる描き方とは異なる部分がある。

以上の点から考えると、『教算坊本』を元本として長秀が『越中立山御絵図』を模写したと推測できる。なお、『教算坊本』はその筆致から、おそらく教算坊衆徒か或いは檀那場の檀家が現地の南面の職人画家に外注して作成された作品と考えられるが、前述の模写関係とは逆に、もし長秀の『越中立山御絵図』を模写して『教算坊本』が成立したとするならば、長秀が当時既存の立山曼荼羅を模写・部分改変したことによって生じた、芦峯寺系立山曼荼羅の一般作品との構図や図像における差異が、『教算坊本』では補正されたことになる。これは、現実的には困難なことであろう。

近江国からの立山参詣

この檀那帳には、No.217近江国坂田郡村居田村「伊兵衛」(現在は坂田郡山東町。)とNo.220同国同郡中多郎村「利平」(現在は坂田郡米原町)について、前者には「寅七月十九日当山」、後者には「寅七月廿日同行三人」と付記されており、二人とも、何年かは不明だが寅年の7月末に立山を訪れていることがわかる。

彼らがもともと教算坊の檀家であったのか、それとも立山参詣が機縁となり、後に教算坊の檀家になったのかは明らかでないが、仮に、もともとの檀家であったとすると、教算坊衆徒は、大坂での毎年の廻檀配札活動のために越中から大坂に赴く際、北国街道から中山道を通り、草津で東海道に入り、大坂に向かったものと思われる。

おわりに

以上、芦嶺寺教算坊が形成した大坂の檀那場の実態を紹介してきた。すなわち、教算坊は、本檀那帳の成立した寛政12年（1800）頃から文政期・天保期を経て、安政2年（1855）以降の何年か後まで、大坂に檀那場を形成していた。

寛政12年（1800）当時、教算坊の檀那場は大坂三郷を中心に檀家数が200軒、宿家が2軒程度の規模で形成されており、特に大坂三郷の檀家数は178軒であった。なお、そのなかでも特徴的な配札地として新町遊廓があげられ、越後町や瓢箪町、吉原町、九軒町などに多数の檀家がみられる。

檀家の実態としては、経済都市大坂を反映してか、なかには大番などの身分の信てもみられるものの武家はきわめて少なく、屋号をもつものが圧倒的に多い。また、新町遊廓の関係者や歌舞伎役者、宗教者などの檀家もみられる。

檀那場での衆徒の活動実態としては、芦嶺寺衆徒の場合、一般的に冬から春にかけての農閑期に廻檀配札活動を行うとされているが、本檀那帳の事例では、5月や8月、9月にそれを行っている。頒布品に大札や「病氣護符」、「家内安全」などの護符をはじめ、血盆経や経帷子などもみられる。祈禱については、大坂三郷が石山本願寺ゆかりの地ということもあってか、真宗的な「御座」が勤められている。ただし、その具体的な実態は本檀那帳からうかがうことができなかつた。また、おそらく立山曼荼羅の絵解き布教を示すものと思われる「懸事」が、時

折檀家に求められて行われている。なお、そうした際に使用された立山曼荼羅『教算坊本（現在の稲沢家本）』は、それが浮世絵作家の有楽斎長秀に模写される文政初期までには既に成立していたことになり、文政元年（1818）当時、芦嶺寺一山において、彼らの立山曼荼羅の一般的な形態であった3幅1対作品の数少ない現存作品としてひじょうに貴重である。今後、この作品を基準として文政初期までの作品の構図や図柄の実態、或いはその後の4幅1対作品への変遷過程などを検討する必要があるだろう。

ところで、寛政12年（1800）に成立した檀那帳が、幕末期まで改訂されずに、或いは完全に作り替えられずに使用され続けてきたことは、教算坊の大坂の檀那場が全く成長・展開していないことを示している。そればかりか幕末期には、衆徒が廻檀配札活動を怠った時期があったため、衆徒が久しぶりに檀那場を訪れた際には、檀家がなくなっていたり或いは代替わりで師檀関係を断られたりしたため、大坂の檀那場を廃止せざるをえなかつた。このように、大坂では概して、檀家の気質によるものか或いは教算坊衆徒の資質によるものか、はたまた教算坊衆徒があくまでも越前の檀那場を重視し、大坂の檀那場は副次的なものとして捉えていたからかは、それを示す資料が皆無で定かではないが、ある意味で教算坊衆徒の大坂での勧進布教は失敗に終わったといえよう。

謝辞

本稿の執筆にあたっては、特に有楽斎長秀の『越中立山御絵図』に関して、坂森幹浩氏（富山市民俗民芸村・篁牛人記念美術館学芸員）より多くのご指

摘・ご助言・資料提供を賜った。ここに記して厚く御礼を申し上げる次第である。

註

- 1) 拙著『近世立山信仰の展開—加賀藩芦峯寺衆徒の檀那場形成と配札—(近世史研究叢書7)』(岩田書院、2002年5月)。
- 2) 「宗門御改帳 芦峯寺 宝曆五年六月七日」(廣瀬誠編『越中立山古記録 第3巻』所収、52~59頁、立山開発鉄道株式会社、1991年10月28日)。
- 3) 「由緒書上帳 扣 立山元東神職 明治六癸酉年一月扣」(廣瀬誠編『越中立山古記録 第3巻』所収、263頁、立山開発鉄道株式会社)。
- 4) 「当山速要御用留 定目代 天保十三壬寅年」(高瀬保編『越中立山古記録 第2巻』所収、124頁・125頁、立山開発鉄道株式会社、1990年4月26日)。「衆徒之内教算坊越前之国江廻旦ニ罷越し候ニ付、」。
- 5) 塚田孝「歴史のなかの大坂 都市に生きた人たち」(岩波書店、2002年9月6日)。
- 6) 「日本歴史地名大系28巻 大阪府の地名」(平凡社、2001年7月1日)。
- 7) 「立山衆徒諸国旦那持御札守等調筆方掟書誓条連判条 芦峯寺宝庫 天保四年癸巳十一月吉日」(廣瀬誠編『越中立山古記録 第1巻』所収、202~212頁、立山開発鉄道株式会社、1989年9月20日)。
- 8) 「御座」(『真宗新辞典』所収、真宗新辞典編纂会編、昭和58年9月10日、法蔵館)。真宗の御座はお講と同種の宗教的機能を果たすが、原則的に区別されるものである。各集落の家で月数回、定例の仏事を開催することをいう。仏間での勤行と茶の間での信心沙汰からなる。仏事の日は、親鸞忌日か各個の集落に所縁の深い宗主の命日などに定められる。地域によっては、いりお座とか中陰お座といった臨時のものも開かれる。原則として、手次寺の住職は参加しない。
- 9) 同帳のNo.123「市川丞飛`重郎」は文政4年(1821)まで檀家であったが、その年、師檀関係を断っているの、この檀那帳が、その頃までは使用されていたことがわかる。
- 10) 同帳のNo.215「木村屋」については、「常現真性居士。文政五壬午八月四日」と「常光真月信女かな。文政元寅九月朔日」といったふうに、二名の戒名と命日が記されており、この檀那帳が、その文政5年(1822)頃までは使用されていたことがわかる。
- 11) 同帳のNo.051「いせ屋おやす」は天保9年(1838)4月に「おやす」から「安治郎」に代替わりしたことを示す記載がみられるので、この檀那帳が、その頃までは使用されていたことがわかる。
- 12) 立山曼荼羅『稲沢家本』については、これまで、佐伯立光「立山曼荼羅絵図解説」(『立山町史別冊』所収、5頁、立山町、1984年2月15日)や岩鼻通明「宗教景観の構造把握への一試論—立山の縁起、マンダラ、参詣絵図からのアプローチ」(『空間・景観・イメージ』所収、168頁、京都大学文学部地理学教室編、地人書房、1983年9月26日)、福江充「立山曼荼羅の図像描写に対する基礎的研究—特に諸本の分類について—」(『富山県[立山博物館]研究紀要 第7号』所収、58頁・59頁、富山県[立山博物館]、2000年3月31日)などでは芦峯寺福泉坊の所蔵本として紹介されている。一方、長島勝正『立山曼荼羅集成(複製)第1期』(文献出版、1983年)や川口久雄『山岳まんだらの世界—日本列島の原風景1—』(141頁、名著出版、1987年12月25日)では芦峯寺教山坊の所蔵本として紹介されている。元来、芦峯寺教算坊が所蔵していた作品であったが、後に芦峯寺福泉坊に移り、さらに現在では立山町の稲沢家に所蔵されるに至った。この経緯や当時の状況などについては本館の佐伯泰正氏が詳しい。
- 13) 拙稿「立山衆徒の勧進活動と立山曼荼羅」(『立山信仰と立山曼荼羅—芦峯寺衆徒の勧進活動—』、115頁~136頁、岩田書院、1998年4月)。
- 14) 「納経一卷等記録 立山芦峯寺 文政元卯年 但シー山要用 場御裁判書立在中配札一件ト可見合」(廣瀬誠編『越中立山古記録 第1巻』所収、106頁、立山開発鉄道株式会社、1989年9月20日)。「納経一件ニ付請書ニ附テ上ル一冊中印 文政元年寅九月」(芦

- 峯寺雄山神社所蔵)。
- 15) 「長秀」(『原色浮世絵大百科事典 第2巻 浮世絵師』所収、原色浮世絵大百科事典編集委員会編、大修館書店、1982年8月5日)。
松平進『上方浮世絵の再発見』(240頁、講談社、1999年4月8日)。
松平進『上方浮世絵の世界』(198頁～205頁、和泉書院、2000年9月20日)。
- 16) 「越中国立山御絵図」(富山県立図書館所蔵、35.5cm×45.3cm、江戸時代後期)。
- 17) 坂森幹浩「解説 神通川船橋と立山一版画に描かれた越中名所」(『富山市民俗民芸村特別展 越中の民画』所収、26頁・44頁・45頁、富山市民俗民芸村、2003年10月18日)。
- 18) 『原色浮世絵大百科事典 第3巻』(原色浮世絵大百科事典編集委員会編、大修館書店、1982年)。
- 19) 黒田源次『上方絵一覽』(31～34頁、274頁・275頁、東洋書院、1978年)。註20)『原色浮世絵大百科事典 第3巻』(原色浮世絵大百科事典編集委員会編、大修館書店、1982年)。

付表 芦峠寺教算坊の大坂檀那帳の内容(寛政12年)

掲載順	信徒名	配札地	軒数	人数	実質 人数	宿数	実質 宿数	該当組・郡	現在該当地	町名	備考
001	いつ見 や兵衛 (内 いざ)	住所の記載なし	1	2	2	0	0	/	/		志。護符、為 手足病気平 ふく。
002	者 や又四郎	住所の記載なし	1	1	1	0	0	/	/		三十八才男、病 氣護符出
003	加めや長右衛 門内 次兵衛)	住所の記載なし	1	2	2	0	0	/	/		。三十五才男、病 氣護符出
004	六兵衛	住所の記載なし	1	1	1	0	0	/	/		燈明
005	善七 (内方)	住所の記載なし	1	2	2	0	0	/	/		燈明
006	庄右衛門 (内方)	住所の記載なし	1	2	2	0	0	/	/		(1字解読できず) 符
007	清兵衛 (内方)	住所の記載なし	1	2	2	0	0	/	/		燈明
008	しまや兵衛	大坂者くろ町塀筋、少東 入、南かわ	1	1	1	1	1	大坂三郷南 組	東区	博勞 町 (平462)	
009	八尾屋安兵衛	南久太良町、カチヤ町	1	1	1	0	0	大坂三郷南 組	東区	南久 町 (平456)	家内安全、礼
010	長野屋九兵衛	南久太良町、カチヤ町角	1	1	1	0	0	大坂三郷南 組	東区	南久太郎 町 (平456)	礼
011	道具屋権兵衛	住所の記載なし	1	1	1	0	0	/	/		礼 無し
012	鳩屋虎之丞	住所の記載なし	1	1	1	0	0	/	/		礼
013	かざり や藤助	住所の記載なし	1	1	1	0	0	/	/		家内安全、礼。無し。
014	平野屋清七	住所の記載なし	1	1	1	0	0	/	/		志。無し。
015	柏屋利右衛 門	から 町 (麴物 町)、宿 前東へ 入、南かわ	1	1	1	1	1	大坂三郷南 組	東区	唐物 町 (平454)	
016	しまや忠兵衛 内	住所の記載なし (009番と同じ住 所。大坂博勞 町筋、 東少入 、南かわ)	0	1	1	1	0	大坂三郷南 組	東区	博勞 町 (平462)	大札八世話人。
017	仏性庵	摂州小橋系 さ町	1	1	1	0	0	摂津国東 成郡	天王寺 区	餌差 町 (東 高津袴平6 87)	
018	淡路屋弥兵衛 (※①)	安堂寺町筋、上本 町半西 門、 少西北がわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南 組	東区	上本 町 (平428)	
019	名嶋屋善兵衛	半丁東 へ入	1	1	1	0	0	大坂三郷南 組	東区	上本 町 (平428)	
020	大和屋安次郎	張り 紙で揉消	1	1	1	0	0	/	/		
021	鳥羽屋五兵衛	順慶 町丁目 角 津屋	1	1	1	0	0	大坂三郷南 組	南区	順慶 町1丁目 (平468)	農人橋西 蘆島羽屋彦 七にて尋。
022	山城屋茂兵衛	安堂寺町塀筋、北横帳東 かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	安堂寺町 (平469)	
023	大和屋半兵衛	順慶町塀筋、少西 へ入、北 かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	順慶町 (平467)	
024	和佐屋吉兵衛	北久宝 町 丁目、南 灘町 わ水戸 軒め釘屋	1	1	1	0	0	大坂三郷南 組	東区	北久宝 寺町1丁目 (平458)	
025	お屋那	順慶町塀筋、西 和慶半兵衛浦	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	順慶 町 (平467)	
026	者り 壺伊兵衛	順慶町塀筋、西大和屋半兵衛浦	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	順慶町 (平467)	
027	者りま屋作兵衛	順慶町1丁目、東へ入	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	順慶町1丁目 (平468)	
028	金屋又助	順慶町1丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	順慶町1丁目 (平468)	
029	和泉屋藤介	順慶町1丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	順慶 町丁目 (平468)	
030	平野や大兵衛	長堀治郎兵衛町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	長堀次郎兵衛 町 (平74)	
031	茨木 や勝兵衛	安堂寺町3丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	安堂寺町3丁目 (平469)	
032	倉橋屋伊兵衛	住吉屋町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	住吉屋町 (平428)	
033	大野屋金兵衛	心清橋筋、伝馬 町 二軒廉 かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	伝馬 町 (平46)	
034	飛し や兵衛	安 堂寺2丁目塀筋、東北 入かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	安堂寺町2丁目 (平469)	
035	飛し や五兵衛	本 町 丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	本 町 丁目 (平453)	
036	中嶋屋宗助	本 町 四丁目、少シ北 入、西 かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	本 町 四丁目 (平453)	
037	朝倉屋与兵衛	北久宝 寺町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝 寺町2丁目 (平458)	
038	いつみ や忠	上本 町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	上本町2丁目 (平429)	
039	あわじや弥平 (※①)	上本 町2丁目	0	1	0	0	0	大坂三郷南組	東区	上本町2丁目 (平429)	
040	いつミ や兵衛	安土 町東 堀浜	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	安土町 (平451)	
041	なら や兵衛	飛ん後、町だの義 (梅檀木) 、少シ西	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	備後 町 (平46)	

掲載順	信徒名	配札地	軒数	人数	実質 人数	宿数	実質 宿数	該当組・郡	現在該当地	町名	備考
042	さしかねや久兵衛	北久宝寺町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町2丁目(平458)	
043	久宝寺屋茂兵衛	米屋町、かしや町東入	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	米屋町〔南本町〕(平453)	
044	若佐屋徳次郎	北久宝寺町2丁目 さ志加ねを 尋る	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町2丁目(平458)	
045	金物屋利兵衛	北久宝寺町1丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町1丁目(平458)	
046	いつみや甚助	北久宝寺町1丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町1丁目(平458)	
047	植松屋弥七	北久宝寺町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町2丁目(平458)	
048	木津や源七	北久宝寺町2丁目、植松屋うち	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町2丁目(平458)	
049	長浜屋伊兵衛	南久太良町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	南久太郎町2丁目(平456)	
050	長浜屋おんめ	南久太良町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	南久太郎町2丁目(平456)	
051	いせ屋おやす(安治郎)	南久太良町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	南久太郎町2丁目(平456)	天保元戊戌四月改ル
052	飛しや伊兵衛	北久太良町、中橋西入南かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久太郎町(平455)	
053	と八や常七	北久太良町1丁目、のう人橋西 詰	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久太郎町1丁目(平455)	
054	関東屋(官頭や)〔文字抹消〕 眞衛	北久宝寺町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久太郎町2丁目(平456)	
055	山城屋久右衛門	かわら町、千多ノ木(栴檀木) 南入東かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	瓦町(平449)	
056	伏見や半右衛門	道嶋町3丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷天満組	北区	堂島(平558)	
057	加わ多や長兵衛	道嶋中町	1	1	1	0	0	大坂三郷天満組	北区	堂島(平558)	
058	鳴や忠兵衛	北久宝寺町1丁目、ほうきや町 東入北かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町1丁目(平458)	
059	手伝屋右衛門(※2)	平野町、高倉筋、南横町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	平野町(平445)	五月廿五日
060	倉橋屋	住吉町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	住吉町(平428)	取次。五月十五日。
061	山田屋五兵衛	大坂諸人橋(上人橋?)、衆場 地蔵2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	上人町(平442)	
062	山田屋五兵衛	北谷町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北谷町(平424)	経かた飛ら上ル。諸牌入 戒名五ツ。拾五印上。 天下一
063	長門屋徳兵衛	本町お八ら以筋、西入北かわ、 東歩	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	本町(平452)	
064	志まや清兵衛(※3)	上町北谷町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北谷町(平424)	
065	井屋宇右衛門(※4)	と義わ町お者ら以筋、西入北か わ中程	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	常盤町(平420)	
066	竹細工や	上町、骨屋町西入南かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	内骨屋町(平415)	
067	尾張屋源八	上町、北谷町衆場地蔵坂	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北谷町(平424)	
068	山田周次【お毛よ】	上町、南新町2丁目	1	2	2	0	0	大坂三郷南組	東区	南新町2丁目(平416)	大者ん二巻。山田周次に 対する敬称だけが「殿」 ではなく「様」。
069	天下一鏡屋利助	本町、太良左衛門町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	内本町太郎左衛門町(平419)	
070	重屋お那か	本町、太良左衛門町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	内本町太郎左衛門町(平419)	
071	永井おみ能	本町、太良左衛門町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	内本町太郎左衛門町(平419)	
072	竹屋嘉右衛門	東堀久宝寺橋	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町458・南久宝寺 町461	
073	高津や善兵衛	東堀材木町、久宝寺橋東詰北へ 入	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	農人橋材木町(平425)	
074	わくや弥兵衛	同本町、骨屋町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	内骨屋町(平415)	

掲載順	信徒名	配札地	軒数	人数	実質人数	宿数	実質宿数	該当組・郡	現在該当地	町名	備考
075	白銀や金四郎	同本町、上三町、谷町東入	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	内本町上三丁(平419)	
076	尾張屋おゑ志(※⑤)	同阿わじ町3町目	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	淡路町(平446)	
077	土佐屋新七(※⑥)	同阿わじ町3町目	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	淡路町(平446)	
078	者りまや源八	北谷町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北谷町(平424)	
079	明石や万三郎(おきく)	南諸人町2丁目(南上人町2丁目)	1	2	2	0	0	大坂三郷北組	東区	上人町(平442)	
080	尾張屋おいし(※⑤)	同阿わ志'町、お者らい筋、東入北かわ、うら	0	1	0	0	0	大坂三郷北組	東区	淡路町(平446)	
081	加んじ	上町、南谷町、阿た古'入口	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	南谷町(平426)	
082	水戸幸右衛門	同北谷町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北谷町(平424)	
083	手伝や喜右衛門(※②)	平野町、高蔵筋南へ入西かわ	0	1	0	0	0	大坂三郷北組	東区	平野町(平445)	
084	薬しや	かわや町、せんなん筋北入西かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	南草屋町(平415)	
085	飛ちや	上久宝寺町、富木東おツて町、善なん筋東入北かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	追手町(平425)	
086	堺屋	上久宝寺町、富木東おツて町、善なん筋東入北かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	追手町(平425)	
087	長兵衛	上塩町	1	1	1	0	0	摂津国東成郡	南区	上塩町(北平野町)(平502)	
088	阿わじや弥兵衛	上町、桜町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	桜町(平494)	
089	常屋伝右衛門	北谷町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北谷町(平424)	
090	者りまや新助(内 お毛ん)	北谷町、糸や町	1	2	2	0	0	大坂三郷南組	東区	北谷町(平424)	廻向料十五文上ル。諸牌入。六良兵衛親柄、内方。
091	八幡屋六兵衛	谷町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	谷町2丁目(平406)	是八経催子。
092	糺屋源兵衛	谷町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	谷町2丁目(平406)	御座
093	近江屋藤兵衛(藤七)	中豊後町、松屋町筋西江入北かわ	1	2	2	0	0	大坂三郷北組	東区	豊後町(平414)	
094	丸伊屋久右衛門	南農人橋町2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	南農人橋町2丁目(平423)	
095	大和屋八兵衛	南農人橋1丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	南農人橋町1丁目(平423)	是八大者んノ近付。
096	八幡屋宇兵衛	釣鐘上之町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	釣鐘上之町(平408)	
097	きづや源七	南農人橋、松屋町2丁目南入	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	松屋町表町(平496)	
098	和泉屋藤右衛門	農人橋東詰、松屋町かし西入南川	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	農人橋詰町(平423)	
099	大和屋角兵衛	久宝寺橋西詰かし南かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町(平458)	
100	土佐屋新七(※⑥)	住所の記載なし(077番と同じ住所、阿わじ町3丁目)	0	1	0	0	0	大坂三郷北組	東区	淡路町(平446)	
101	大坂屋宇兵衛(※⑦)	南堀1丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	南堀江1丁目(平531)	五月十四日
102	吉野屋以上	南堀頓田屋橋	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区		
103	大坂屋宇兵衛(※⑦)	南堀へ1丁目	0	1	0	0	0	大坂三郷南組	西区	南堀江1丁目(平531)	
104	嘉助	西横堀、四ツ橋、南へ2丁目、松やノ筋北へ2間目	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	四ツ橋(平475)	
105	ミきや儀兵衛	堀へ市ノ川一筋西、志八はうら	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	道頓堀芝居側(平492)	
106	木挽屋伝右衛門	幸町、西日面川ナキ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	浪速区	幸町(平697)	
107	阿たや長兵衛	幸丁2町目、幸橋南	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	浪速区	幸町(平697)	
108	平野屋吉兵衛(※⑧)	北堀へ2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	西区	北堀江2丁目(平530)	
109	広嶋屋清兵衛	北堀へ2丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	北堀江2丁目(平530)	
110	天王寺屋利助	新町橋、藤右衛門町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	藤右衛門町(平524)	
111	いつみや久兵衛	新町橋西かど	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	
112	倉橋屋熊治郎(※⑨)	新町	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	
113	安藤寿し	堂頓堀	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	道頓堀宗右衛門町(平490)	
114	松長忠蔵	堂頓堀	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	道頓堀宗右衛門町(平490)	
115	三田屋政右衛門	五右衛門町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	高津五右衛門町(平488)	
116	六兵衛	南瓦屋町、ニツゑど	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	南瓦屋町(平496)	

掲載順	信徒名	配札地	軒数	人数	実質 人数	宿数	実質 宿数	該当組・郡	現在該当地	町名	備考
117	明石屋徳兵衛	西高津町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	西高津町(平498)	
118	伊勢や九右衛門	谷町筋生玉	1	1	1	0	0	摂津国西成郡	天王寺区	生国魂神社(平684)	
119	堺屋宗右衛門	心濟橋筋、宗右衛門町少し東	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	道頓堀宗右衛門町(平490)	
120	長川屋徳兵衛	本町、おほらい筋西入北かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	内本町上三丁(平419)	
121	志まや清兵衛(※③)	上町、北谷町	0	1	0	0	0	大坂三郷南組	東区	北谷町(平424)	
122	升屋宇右衛門(※④)	上町、ときわ町、お者らい筋西入北かわ、中ほど	0	1	0	0	0	大坂三郷北組	東区	常盤町(平420)	
123	市川系飛 重郎	大坂多たみや町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	南豊屋町(平483)	文政四辛迄。御座。
124	御ちか	東堀へ材木町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	農人橋材木町(平425)	御座。加けじ(懸事)。
125	泉屋隠居	北久宝町、中橋西へ入、南川うら清水や裏	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久宝寺町(平458)	加けじ(懸事)。徳らや取次。
126	灰屋清助	者く路町、東堀北へ入、久宝寺橋西詰かし北へ入西がわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	博労町(平462)	御懸じ
127	木や庄兵衛	のう人橋北、少し入、東つめ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	農人橋詰町(平423)	懸ヶ事
128	方見仁左衛門	多たみや町、堂頓堀出る、北西角	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	南豊屋町(平483)	懸ヶ事
129	飛免じや弥兵衛	大坂嶋之内宗右衛門町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	道頓堀宗右衛門町(平490)	一、戒名二血盆経二人分、外二経帷子受る。代済。
130	小尔志	阿わじ町堺筋	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	東区	淡路町(平446)	一、御懸事御願被成候。
131	朝倉屋武兵衛	東堀り瓦屋橋町南之筋、地藏坂筋、松屋町、三ツめ東西南角米屋	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	南区	南瓦屋町(平496)	九月四日。八月廿八日、御懸事御座仕候。
132	堺屋宗左衛門	心さい橋すじ、南浜かシ、東入	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	西区	南浜町(平517)	
133	平野屋吉兵衛(※⑧)	嶋之内宗右衛門町、北堀江2丁目	0	1	0	0	0	大坂三郷北組	西区	北堀江2丁目(平530)	御座
134	粉屋	新町橋東、少シ北入東かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	西区	橋通(平532)	御座
135	泉久	新町東口西かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
136	昆屋	同町西かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
137	平蔵	新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
138	大加きや太郎兵衛(※⑩)	同町	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
139	茨木や八良兵衛(※⑪)	同町	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
140	倉橋や	同町	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
141	紀ノ新(●①)	同町	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
142	中嶋や(●②)	同町	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
143	おりね	新町、西ノ屑子や、橋町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	新町遊廊(平525)	御座
144	者り物や次助	同町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	橋町(平527)	御座
145	けたや	同橋町、西北かど	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	橋町(平527)	御座
146	嶋屋嘉七(※⑫)	新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	橋町(平527)	近付、よ八運申候。
147	加ら可さや	嶋や嘉七(新町通り筋)西となり	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平526)	御座
148	のみや	嶋や嘉七(新町通り筋)之向	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	一、経かた飛ら申受被成候。夫よりちか付也。是も御座候。嶋嘉二而尋る。
149	さ可へや	新町九間	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊・九軒町(平526)	
150	銭屋太助	北久太良町、千駄ノ木筋、東かわ	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	東区	北久太郎町(平455)	己年、近付二相成り候。
151	木の新(●①)	大坂新町	0	1	0	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
152	倉橋屋重兵衛	大坂新町	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
153	ちくさや松之助	大坂新町	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
154	吉のや善兵衛	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
155	平兵衛	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
156	大垣や太郎兵衛(※⑩)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
157	吉右衛門	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座

掲載順	信徒名	配札地	軒数	人数	実質 人数	宿数	実質 宿数	該当組・郡	現在該当地	町名	備考
158	飛のや安兵衛	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
159	大垣や・龜屋利兵衛	大坂新町通り筋	1	2	2	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
160	茨木や八良兵衛(※⑩)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
161	紙や弥平	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
162	紀ノ国や新平(●①)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
163	倉橋屋熊治郎(※⑨)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
164	中嶋やおいし(●②)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
165	嶋屋お登ミ	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
166	儀右衛門	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	新町遊廊(平525)	御座
167	板新	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	
168	紙右衛門	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
169	嶋屋飛な	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
170	大鶴	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
171	おりやノ隠居	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
172	池田屋お飛ん	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
173	おむツ	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
174	阿かしや	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
175	西ノ紙屋甚三郎	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
176	いせ婦さ	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
177	さノや	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
178	わた長	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
179	大和屋儀右衛門	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
180	京屋彦兵衛	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・越後町〔佐渡島町〕(平526)	御座
181	升義	新町、吉原町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組領城町	西区	新町遊廊・吉原町(平527)	御座
182	阿ま	新町、吉原町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組領城町	西区	新町遊廊・吉原町(平527)	御座
183	平のや平八	新町、吉原町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組領城町	西区	新町遊廊・吉原町(平527)	御座
184	吉野やお加年	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・瓢箪町(平526)	御座
185	金加や源兵衛	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・瓢箪町(平526)	御座
186	大和やおち可	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・瓢箪町(平526)	御座
187	とら八	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・瓢箪町(平526)	御座
188	嶋や嘉七(※⑪)	新町、西扇屋横町	0	1	0	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・瓢箪町(平526)	御座
189	上や さ可へや	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組領城町	西区	新町遊廊・瓢箪町(平526)	御座
190	京屋(大工)彦兵衛	新町、九間	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	新町遊廊・九軒町(平526)	御座

掲載順	信徒名	配札地	軒数	人数	実質人数	宿数	実質宿数	該当組・郡	現在該当地	町名	備考
158	飛のや安兵衛	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
159	大垣や・亀屋利兵衛	大坂新町通り筋	1	2	2	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
160	茨木や八良兵衛(※⑩)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
161	紙や弥平	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
162	紀ノ国や新平(●①)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
163	倉橋屋熊治郎(※⑨)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
164	中嶋やおいし(●②)	大坂新町通り筋	0	1	0	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
165	嶋屋お登ミ	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
166	儀右衛門	大坂新町通り筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南0R北組	西区	新町遊廓(平525)	御座
167	板新	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	
168	紙右衛門	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
169	嶋屋飛な	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
170	大鶴	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
171	おりやノ隠居	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
172	池田屋お飛ん	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
173	おむツ	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
174	阿かしや	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
175	西ノ紙屋甚三郎	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
176	いせ婦さ	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
177	さノや	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
178	わた長	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
179	大和屋儀右衛門	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
180	京屋彦兵衛	新町、越後町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・越後町(佐渡島町)(平526)	御座
181	升義	新町、吉原町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組傾城町	西区	新町遊廓・吉原町(平527)	御座
182	阿ま	新町、吉原町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組傾城町	西区	新町遊廓・吉原町(平527)	御座
183	平のや平八	新町、吉原町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組傾城町	西区	新町遊廓・吉原町(平527)	御座
184	吉野やお加年	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・瓢箪町(平526)	御座
185	金加や源兵衛	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・瓢箪町(平526)	御座
186	大和やおち可	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・瓢箪町(平526)	御座
187	とら八	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・瓢箪町(平526)	御座
188	嶋や嘉七(※⑫)	新町、西扇屋横町	0	1	0	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・瓢箪町(平526)	御座
189	上や さ可へや	新町、西扇屋横町	1	1	1	0	0	大坂三郷南組傾城町	西区	新町遊廓・瓢箪町(平526)	御座
190	京屋(大工)彦兵衛	新町、九間	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	新町遊廓・九軒町(平526)	御座

掲載順	信徒名	配札地	軒数	人数	実質人数	宿数	実質宿数	該当組・郡	現在該当地	町名	備考
191	金加やおぎん	新町、九間角	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	新町遊廊・九軒町(平526)	御座
192	明石や佐右衛門	新町、九間	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	新町遊廊・九軒町(平526)	
193	と婦や	新町、九間	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	新町遊廊・九軒町(平526)	御座
194	あわさう越万	新町、九間	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	新町遊廊・九軒町(平526)	御座
195	記載なし	小浜町、間や橋筋、天馬屋うら	1	1※	1	0	0	大坂三郷南組	西区	小浜町(平527)	御座
196	八里まん伊兵衛	すな者 大こんや座敷。	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	砂場〔佐渡 麿〕(平526)	御座
197	おせん	小浜町、間や橋筋	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	小浜町(平527)	祈禱いたし。
198	新彦	立売堀、中橋	1	1	1	0	0	大坂三郷南組	西区	立売堀中橋町(平522)	御座
199	記載なし	北堀へ2丁目、南堀へ3家	1	1※	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	北堀江2丁目(平530)	御座
200	記載なし	山本町、江とノ筋	1	1※	1	0	0	大坂三郷南組	西区	山本町(平524)	御座
201	記載なし	山本町、高橋筋	1	1※	1	0	0	大坂三郷南組	西区	山本町(平524)	御座
202	記載なし	松へ橋	1	1※	1	0	0	不明	不明		御座
203	記載なし	ふ志ん堀、おかさき橋、北東詰	1	1※	1	0	0	大坂三郷北組	西区	岡崎町(平519)	御座
204	飛らや安(取次)	新町	1	1	1	0	0	大坂三郷北OR南組	西区	新町遊廊(平525)	取次
205	記載なし	越中どノ橋	1	1※	1	0	0	大坂三郷北組	西区	土佐掘1丁目(平511)	御座
206	大津屋おくら	まへた連嶋	1	1	1	0	0	摂津国西成郡	浪速区	前垂島〔西側町〕(平700)	御座
207	志くや弥平	長堀東堀	1	1	1	0	0	不明	不明		御座
208	称明寺	下寺町	1	1	1	0	0	摂津国東成郡	天王寺区	下寺町〔天王寺村〕(平668)	御座
209	記載なし	高木や橋すじ、南へ2丁目、少南、西かわ	1	1※	1	0	0	大坂三郷南OR北組	西区	高台橋〔南堀江3丁目〕(平532)	御座
210	とさや伊三郎	橋通り4丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	西区	橋通4丁目(平532)	御座
211	つつや弥助	大坂尼が崎橋、白子うら町	1	1	1	0	0	大坂三郷北組	西区	白子裏町(平511)	加志 まや出入
212	八たや弥平	天馬7丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷天満組	北区	天満7丁目(平547)	
213	伏見屋庄右衛門	天馬7丁目	1	1	1	0	0	大坂三郷天満組	北区	天満7丁目(平547)	
214	寿や庄兵衛	住所の記載なし	1	1	1	0	0	/	/		
215	木村屋	住所の記載なし	1	1	1	0	0	/	/		文政五壬午八月四日、常現眞性居士。常光眞月信女かな、文政元寅九月朔日。
216	太助	村居田村	1	1	1	0	0	近江国坂田郡	滋賀県坂田郡山東町		
217	伊兵衛	村居田村	1	1	1	0	0	近江国坂田郡	滋賀県坂田郡山東町		寅七月十九日当山。
218	源助	下多郎村	1	1	1	0	0	近江国坂田郡	滋賀県坂田郡米原町		
219	嘉平治	下多郎村	1	1	1	0	0	近江国坂田郡	滋賀県坂田郡米原町		
220	利平	中多郎村	1	1	1	0	0	近江国坂田郡	滋賀県坂田郡米原町		寅七月廿日同行三人。
			204	230	215	3	2				

凡例

- 一、本表は芦峠寺雄山神社が所蔵する芦峠寺教算坊の大坂の檀那帳(寛政12年)に記された内容解説・整理し、その情報を表に示したものである。
- 一、「町名」の項目における(平○○○)などの記載は、平凡社刊『大坂府の地名I 日本歴史地名大系28』の中での該当町名の記載頁を示すものである。
- 一、「信徒名」の項目における※印と番号がふられた信徒は、同番号の人物どうしが同一人物であることを示す。また、●印と番号がふられた信徒は、同番号の人物どうしが同一人物である可能性を示す。